

9  
vol.151

広報 縄文村だより vol.151 (9月号)

# Jomon Times

— 2018年、里浜貝塚は  
発掘 100周年を迎えます。 —

平成30年9月1日  
●編集・発行●  
奥松島縄文村歴史資料館  
東松島市宮戸字里81-18  
TEL 88-3927 FAX 88-3928



## 縄文ブーム来たる!?

「縄文ブーム」が起きているといわれている近年。ついに縄文村にもその波が!?

7月には、地元東日本放送「夕方LIVE キニナル」で資料館が特集され、NHK「あさイチ」の東松島市特集では、里浜貝塚のスゴイところと、里浜ならではの体験イベントが紹介されました。ついに全国の皆さんに「縄文村」と「里浜貝塚」の名前を知っていただく良い機会に!

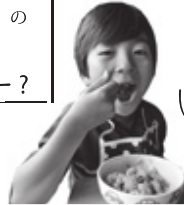


あさイチのキャラクターが縄文服を着てウニ剥きに挑戦。

来月、発掘 100周年を迎える里浜貝塚。ぜひとも「縄文ブーム」の波に乗りたいたいものです。

### 縄文村が全国デビュー?

## 申し込み殺到! 縄文グルメを食そう!ウニ



はじめて食べただけ、あまくておいしい!



## 縄文村で夏を満喫!

石器でウニ剥きに挑戦

毎年申し込みが殺到する大人気イベント「縄文グルメを食そう!ウニ」。7月8日、17組43名のウニ好きさんが集まりました。里浜貝塚ではウニの刺や口が出土し、縄文人骨にも素溜りをしていた証(外耳道骨腫)が見つかります。宮戸島のウニ漁の歴史は縄文時代までさかのぼるのです!そんな「縄文講座」でウニの歴史を学んだ後、いよいよウニとご対面です。

今年のウニは例年に増して大ぶり!皆さんの期待も膨らみます。石器でウニの殻を割り、ワタを取り出して…。待ちきれず作業の途中に味見する人も!キレイにウニが剥けたら、お待ちかねの「ウニランチ」を楽しみました。

記録的な猛暑だった今夏。そんな中、縄文村はイベントに出前に、ご予約にと大忙し。暑い(熱い?)夏を振り返ります。



憧れの火焔土器に挑戦してみました!

### 今年本格派!?

7月22日に開催した「縄文教室」。今年は12組41名が集まりました。土器作りビギナーさんが多かった今回。講師をお呼びした菊地逸夫先生(元・東北歴史博物館学芸員)にアドバイスを受けながら、作品作りに取り組まれました。

火焔土器に挑戦したり、粘土ひもを上手に使い渦巻き模様を付けたりと、初めてながら本格派な土器が完成!先生をはじめ、スタッフも驚く力作揃いとなりました。イベント常連さんはさすが!大型の土器を作り上げ、ビギナーさんが見学に来たりとその実力を発揮、子ども達も、昨年よりも上手に、そして真剣に土器を作り、成長が感じられました。早くも野焼きが楽しみです。

## 縄文教室

第一回・土器作り



【次号】

10月28日で発掘 100周年を迎える「里浜貝塚」。10月号では改めて里浜貝塚の発掘の歴史を振り返るとともに、関連イベントについて特集します!!

## 予約・出前で大忙し!

夏休みに入ると、市内外の子ども会や公民館のご予約でいっぱい!夏休み開始から2週間で380人が縄文体験を楽しみました。

さらに、土日には電力ビルで開催された観光PRイベント「三陸フリーウェイ」と、三陸自動車道春日PA「歴史体験まつり」へ出前!縄文服を着て記念撮影する「縄文写真館」と「縄文レプリカ」を行い、縄文村と奥松島をしっかりとPRしてきました。



## もっと知りタイ! 地域おこし協力隊 (第17回)

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課地域振興班 ☎内線1232



### 鈴木 友貴さん(24)

観光振興

## 馬で地域交流・活性化を

岩手県遠野市出身の鈴木さんは、野蒜地区にある馬と森を活用した地域の憩い場「美馬森八丸牧場」で活動しています。

美馬森八丸牧場は、震災後から市内で継続的な復興支援を展開している一般社団法人美馬森JAPANが運営する牧場です。馬の持つ力を活かして、地域や森が豊かさを取り戻し、笑顔あふれる持続可能な社会作りを目的とし、主に、地域の子どものために馬とふれあえる野外活動の場を創出しています。

昔から動物好きだった鈴木さんは、専門学生時代に同法人の活動にボランティアとして参加。特に馬が大好きで、美馬森JAPANの復興事業にも積極的に携わってきたといいます。神奈川県から移住し、今年5月に地域おこし協力隊に入隊。活動の場を本格的に八丸牧場に移しました。「馬を使って地域経済を盛り上げる」をテーマに、地域に根ざしたさまざまな事業を展開しています。また馬の世話や管理なども怠らず、勉強を重ねながら牧場の緑化作業にも汗を流しています。

「馬はとっても賢くて奥の深い動物なのです。個々で性格は違いますし、ボディランゲージを通して心を通わせることもできます」と魅力を語る鈴木さん。「地域の子どものたちにも馬を通じて、心の豊かさとは何かを考えてもらいたいです」と話していました。

